長岡税務署長賞

花いっぱいの町

新潟県立長岡高等学校
二年　大橋　優羽

私が住んでいる町は、花があふれる町である。等間隔に並べられた街路樹の間には、小さな花壇があって、いつも季節の花が咲いているのを町を歩く際は毎度目にしている。それに加えて、花が咲いている大きな施設もある。私はそもそもこの花いっぱいの町が好きだったが、この花たちは市民一人一人から集めた税、地方税の一部をつかって植えられているのだと知って、さらにこの町に、感謝の念も抱き始めた。

地方税とは、会費の意味を強く持つ税だ。地方の公共施設の運営のためにその地域に住む住民から税金を集め、市町村が管理している。その中でも今私たちに最も身近なものの一つに個人住民税がある。これは、その市町村の住民一人一人が納入する税金だ。これを含めた地方税は、消防や警察、水道、公共施設の運営など、生活に必要な様々なものに使われるが、私達の町では、その中に「花」に関わる運営費も含まれている。

たかが花のために税をつかうなんて無駄だと考える人もいる。しかし、花があることで、この町は明るい町になっていると感じる。私はボランティアの方がおしゃべりをしながら楽しそうに花を植えているのを目にする。そうすると見ている私も、和やかな気持ちになる。道でこれらの花に出会うとき、花はしゃべらず、いつもそこにいるから、どんな気持ちで歩いていても癒やしのパワーをもらっている。しかもそれは一定の人のみに与えられるものではなく、みんなが楽しめるものでもある。私は花がたくさん咲いている場所に行ったとき、親子や老夫婦、学生など、幅広い年代の人がそこを訪れているのを目にした。それを見て、花は年代を問わず楽しみを分かち合えるものなんだと感じた。花は葉のざわめく音、におい、色など、見たり聞いたり、かいだり、多くの楽しみ方がある。それによって花はいろいろな人に元気を与える。このみんなで花を楽しむ雰囲気はまた、見附市の平穏な毎日を支えていると思う。

私は中学の時にこの町に引っ越してきたが、花がたくさんあるこの町を気に入っている。みんなでお金を出し合って、この市の明るい雰囲気や、色をつくっているのが見えて、私はとてもいい町だなと感じ、そんな町をつくってくれる市民に感謝の思いを持った。市民の思いがつまった花は今日もまた、人々にパワーを与えているに違いない。